

2011～2015年

つながりふくしプラン


だれもが安心して暮らせるふくしのまちづくり

～宍粟での新しいつながりのカタチをつくる～

ダイジェスト版



2011年8月

 ふれあいネットワーク

社会福祉法人 宍粟市社会福祉協議会

ご挨拶

私たち日本人は古来、農作業などにみられるように、それぞれの家族はもとより集落・地域において助け合い・教え合い・支え合う中、つながりの絆社会を維持して参りました。

その支えあいの絆社会にはほころびが生じ、人と人、人と社会のつながりが希薄になり始めたきっかけは一体何だったのでしょうか。近年その傾向が顕著になり、残念ながらその世情は「無縁社会」「孤立社会」とも言われ、深刻な社会不安につながっています。

2004年をピークに日本の人口が減少の時代を迎えた中であって、一方で人口が都市部に集中する傾向は依然として続き、当地域の様な中山間地域においては、世帯の小規模化、単身化が進み、少子化が地域の高齢化率を高めています。このような社会構造は、公共交通網の衰退、医療不安、生活必需品の調達難など、高齢者等に安心して生活を続けづらい状況をもたらし、結果として連綿と続いてきた生活のセーフティネット「コミュニティ」の維持にも影響を与えるという負のスパイラルの様相を示しつつあります。

このような背景の中この度、平成19年度から3年間にわたり取り組んだ「宍粟市社協第1次地域福祉推進計画」の評価をもとに、平成23年度から平成27年度までの5年間でスパンとして“だれもが安心して暮らせるふくしのまちづくりー宍粟での新しいつながりのカタチをつくるー”を地域福祉目標に定め、「宍粟市社協第2次地域福祉推進計画（愛称；つながりふくしプラン）」を策定しました。私たち誰もが住み慣れた環境で、安心して生活できることを望んでいます。その実現のためにも、私たち一人一人がお互いを尊重し、お互いに支え合える地域社会づくりのために、地域みんながそれぞれの立場で出来る範囲の参画（つながり）をすることが今求められているのではないのでしょうか。

宍粟市が行政の立場で策定された「地域福祉計画」との整合・協働も念頭に、本計画の実践をとおして社協の役割を果たすことが求められております。地域の皆様におかれましては、今後とも一層のご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。

終わりにになりましたが、この第2次計画策定にあたり、神戸学院大学教授 藤井博志先生を中心に、知識経験豊かな住民・住民組織代表の方々、行政の幹部、本会理事等合計12名の委員で策定委員会を、そして本会職員10名で作業部会を構成し、それぞれが1年余に及ぶ真剣な議論を重ねていただきました。その間の多大なるご尽力に心から感謝しお礼を申し上げます。

社会福祉法人 宍粟市社会福祉協議会
会長 鶴崎和宏

目次

はじめに	第2次地域福祉推進計画の策定にあたって	1
	第2次地域福祉推進計画策定委員会	
	委員長 藤井博志(神戸学院大学総合リハビリテーション学部教授)	
第1章	社会福祉をとりまく現状と課題	2
	1. 社会福祉をめぐる情勢	2
	2. 宍粟市の生活・福祉課題と地域福祉の推進	7
第2章	社協の理念、目標と宍粟市社協の現況	15
	1. 社協の理念	15
	2. 宍粟市社協が目指すもの	16
	3. 宍粟市社協の組織	16
	4. 宍粟市社協の事業の現況と今後の取組みの方向	20
	5. 宍粟市社協の財政状況	49
第3章	第2次地域福祉推進計画	53
	1. 計画のねらい	53
	2. 計画の推進期間	53
	3. 第2次地域福祉推進計画を進める会の設置	54
	4. 社協がめざす地域福祉目標	54
	5. 計画の愛称	54
	6. 計画の基本的視点	54
	7. 推進目標、活動項目、個別活動項目	56
	8. 年次計画	60
	9. 総合体系図	71
	10. 地域ネットワーク関係図	72
第4章	第2次地域福祉推進計画の推進方法	73
	1. 地域福祉計画と地域福祉推進(活動)計画の連携	73
	2. 宍粟市地域福祉計画について	74
	3. 宍粟市地域福祉計画と第2次地域福祉推進計画の整合性	78
	4. 第2次地域福祉推進計画の推進と進行管理	80
	5. 個人情報保護法と地域福祉の推進	82

資料編	87
i 第1次地域福祉推進計画の総括	88
ii 中学校区別基本データ	93
iii 小地域福祉活動アンケート	110
iv 地域福祉のつどいアンケート	123
v 用語解説	129
vi 計画策定の経緯	132
vii 策定委員会設置要綱	135
viii 策定委員会・作業部会名簿	137